

【第7回歴史都市防災シンポジウム】※第2回定例研究会は当シンポジウムにて代替開催

開催日：2013年7月13日(土) 10:30～17:30

開催場所：立命館大学 衣笠キャンパス 清心館

参加者：150名

講演者：長谷見 雄二(早稲田大学 創造理工学部建築学科 教授)他

概要：

立命館大学衣笠キャンパスにて、第7回歴史都市防災シンポジウムが開催された。歴史都市や文化遺産の防災に関する36件の研究発表と活発な討議が行われ、全国から約150人の参加があった。セッションは、避難、土砂災害、水害・土石流、木造建造物、地震、防災・火災、リスク評価、地区防災、防災計画と多岐にわたり、シンポジウムで発表された研究成果については「歴史都市防災論文集 Vol.7」として刊行された。

また、10年に渡るCOE活動拠点を継承し、今年度から「歴史都市防災研究所」としてさらに展開するために、キックオフシンポジウムを開催し、早稲田大学 創造理工学部建築学科・長谷見 雄二教授より、ご講演を頂いた。



キックオフシンポジウムの様子



セッション会場の様子



セッション会場の様子



セッション会場の様子

【立命館大学 UNESCO Chair「文化遺産と危機管理」国際研修 2013】

実施期間：2013年9月7日(土)～9月21日(土)

開催場所：立命館大学 衣笠キャンパス 歴史都市防災研究所

参加者：10名(研修者)

概要：

2013年9月7日から21日まで15日間にわたり、立命館大学ユネスコ・チェア「文化遺産と危機管理」国際研修 2013 を実施した。第8回目となった本年度は、世界各国より100名を超える応募者がおり、その中から、アフガニスタン、インドネシア、iran、モルディブ、ネパール、ナイジェリア、タンザニア、タイ、そしてイタリアから計10名の研修者を選出し、招聘した。

研修者は、日本の文化遺産と危機管理に関する取り組みを、京都での講義と見学、実習を通して学び、長期的な復興について阪神淡路大震災から18年を経た神戸で学んだ。また、東日本大震災から2年半となる宮城県南三陸町では、フィールドワークと地元のリソースパーソンを交えた実践的なワークショップで、復興における文化遺産の果たす役割について再考する現地研修を行った。

立命館大学 UNESCO Chair「文化遺産と危機管理」国際研修は、これまで実施した研修実績とともに、立命館大学内外の研究者、国際機関や行政、そして現場の専門家など多彩な講師陣、また、世界各国からの研修者の積極的な参加により高い評価を得ている。今後、さらに内容の充実を図りながら、継続的に開催していく予定である。



ユネスコ・チェア国際研修 2013 研修者と講師



木造文化財建造物の見学(清水寺)



文化財防災設備の見学(仁和寺)



修了証書授与

【講師一覧】

■国内招聘講師

北河 大次郎	文化庁文化財部・参事官付文化財調査官
鶴岡 典慶	京都府教育府指導部文化財保護課・副課長(建造物担当)
村上 裕道	兵庫県教育委員会・文化財室長
町田 善軌	京都市行財政局 防災危機管理室・防災課長
Rajib SHAW	京都大学大学院 地球環境学堂・准教授
平岡 善浩	公立大学法人 宮城大学事業構想学部・教授
後藤 一磨	公立大学法人 宮城大学 地域連携センター・復興まちづくり推進員
工藤 真弓	公立大学法人 宮城大学 地域連携センター・復興まちづくり推進員
大森 彦一	大森設計事務所・代表
内藤 秋枝 ユミ イザベル	東京藝術大学・非常勤講師
己斐 裕一	独立行政法人 科学技術振興機構・研究開発戦略センター(政策ユニット)

■国外招聘講師

Joseph KING	Director of the Sites Unit, ICCROM
Giovanni BOCCARDI	Focal point - Sustainable Development, Disaster Risk Reduction, Capacity Building, UNESCO World Heritage Centre
Sebastian MOFFATT	President and CEO, CONSENSUS Institute Inc.
JO Sang sun	Research Associate and Curator, Heritage Repair Division, Cultural heritage Administration of Korea

■学内講師

土岐 憲三	衣笠総合研究機構・教授
Rohit JIGYASU	衣笠総合研究機構・教授、UNESCO Chair Holder
板谷 直子	衣笠総合研究機構・准教授
大窪 健之	理工学部 都市システム工学科・教授
深川 良一	理工学部 都市システム工学科・教授
矢野 桂司	文学部 地理学専攻・教授
里深 好文	理工学部 都市システム工学科・教授
山崎 正史	理工学部 建築都市デザイン学科・特任教授
向坊 恭介	理工学部 建築都市デザイン学科・助教

【第1回学外視察】

開催日：2013年12月5日(木) 13:00～17:00

視察先：姫路城

参加者：30名(教員・学生)

概要：

2009年度にスタートした「姫路城大天守保存修理事業」が最終年度に入り、修復された大天守も創建時の美しさを現している。この保存修理工事の様子を見学できる「天空の白鷺」が設置され、連日多数の人々が訪れている。

世界遺産・姫路城はその優美さから「白鷺城」とも称され、誰もが一度は訪れてみたい文化遺産である。今回、保存修理事業の最終段階に入ったことや「姫路市と立命館大学との連携協力に関する協定書」の締結などがあり、2013年12月5日、30名の参加を得て、第1回学外視察が敢行された。

到着後、姫路城管理事務所和田所長から保存修理工事の概要についてビデオなどを用いた説明を頂いた後、2つのグループに分かれて約2時間の視察を行った。入場受付から「天空の白鷺」までの道のりは、当日はあいにく小雨がぱらついていたが、同行して頂いた管理事務所の職員の方から、「この石垣は少しほらみ出して危ない」、「この巨石には○○藩の家紋が入っている」、「千姫を迎えた化粧櫓です」など、築城当時の様子が想い浮かべられるような説明を至る所で頂き、天空の白鷺までの「歴史の散歩道」を楽しんだ。

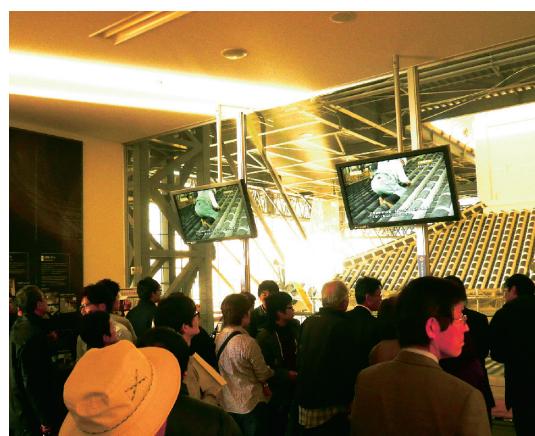
大天守まではエレベータで一気に上った。目の前には真っ白い大天守閣が出現し、誰もがシャッターを切っていた。「天空の白鷺」では、目の前の天守閣ばかりでなく姫路市やその先も一望できる高さで、驚くばかりであった。

天守閣を後にし、管理事務所内にて質疑応答の時間に入った。構造系に関する質問や修理費用の調達などのファイナンスに関すること、災害時の観光客の安全確保、防火設備に関することなど、多数の質問があり、予定していた時間を超えるような活発な意見交換が行われ、参加者全員から「大変有意義な時間であった」との感想が得られた。

最後に、懇切丁寧にご対応頂いた姫路城管理事務所の方々に深甚の感謝を申し上げたい。



石垣についての説明を聞く学生



天守を目の前に説明を聞く参加者の様子

【第7回 夏休みにみんなでつくる地域の安全安心マップコンテスト】

表彰式: 2013年12月15日(日) 13:00~14:00

開催場所: 立命館大学 衣笠キャンパス 歴史都市防災研究所 地階 カンファレンスホール

応募作品: 62作品 94名

協賛: NTT西日本京都支店、株式会社パスク、日本ミクニヤ株式会社、

Fレンタリース株式会社(順不同)

後援: 国土地理院、京都新聞社、KBS京都、京都市、公益財団法人京都市景観・まちづくりセンター、株式会社白石バイオマス、コクヨマークティング株式会社、人文地理学会、立命館地理学会、NPO災害から文化財を守る会(順不同)

概要:

立命館大学歴史都市防災研究所では、大学による社会貢献の一環として、地図の作成を通じて地域の安全安心を考える取り組みを評価し、促進するために、2007年度より小学生とその保護者を対象に「地域の安全安心マップコンテスト」を実施しており、今年で第7回目の開催となった。本事業は、身のまわりに存在する地震、津波、台風や集中豪雨といった自然災害や、自動車や自転車との交通事故、不審者などによる犯罪など、安全安心を脅かす要素について、子供という災害時要援護者ならではの視点で地図にまとめることで、自らの体験を通じて理解したうえで、周囲とその情報を共有することができる取り組みである。

今年度は62作品94名の応募があり、延べ参加人数は160名を数え、京都府以外の地域からの応募が増加した。また、通学路のハザードマップや災害対応型自動販売機の設置場所についてなど、開催回数を重ねるごとに応募作品の内容についても多様になってきており、専門家の視点からも関心を引くものが多くみられた。当該事業は、研究所活動の柱の一つとして、今後も引き続き実施する予定である。



表彰式の様子



優秀作品は展示ルームにて一般公開
(2013年10月25日～12月20日)

【第1回公開セミナー「いま、あなたの文化財が狙われている」】

開催日：2013年8月1日(木) 13:30～17:30

開催場所：立命館大学 衣笠キャンパス 創思館1階 カンファレンスルーム

参加者：80名

講演者：大河内 智之(和歌山県立博物館 主査学芸員)、井上 元次(京都市消防局 予防課長)、川道 美枝子(関西野生生物研究所 所長)、谷口 仁士(立命館大学歴史都市防災研究所 副所長／神社仏閣防犯システム研究コンソーシアム 代表)

概要：

このセミナーの趣旨は、「今、文化財は多くの危機にさらされている。自然災害ばかりでなく、犯罪(盜難や放火)やアライグマなどによる被害から、文化財をどのようにして守るべきか一関係機関と専門家が、現状と対策について」である。関係機関や専門家の4人から、その現状について下記のとおり報告頂いた。

和歌山県立博物館主査学芸員・大河内 智之氏

和歌山県内では平成22年から平成23年に被害届が60件、160体を超える被害届が出された。被害に遭遇した多くは無住職寺からであった。県立博物館では、各地に残っている無防備な寺院からの資料の緊急避難(避難先は博物館)とともに一緊急アピール・文化財の盗難多発中ーと題する企画展示を開催し、その実態を説明するとともに「文化財の大切さ」もアピールした。

京都市消防局予防課長・井上 元次氏

京都市内で、昭和23年から平成25年3月までに発生した文化財関係の火災件数は150件に上っている。年平均約2.3件となる。さらに、その原因は45%が放火であるとの報告である。この大切な文化財を守るため自動火災報知器、消防署への自動通報、境内の消火施設(放水銃など)の充実を図っている。さらに、文化財防災マイスターの育成などソフト面からの対応も行っているとの報告がなされた。放火、失火、類焼などで焼亡した文化財は、命と同じで元に戻ることはない。

関西野生生物研究所所長・川道 美枝子氏

京都府内や京都市内の文化財で確認されたアライグマの被害についての報告があった。その実態は、殆どの社寺仏閣ではアライグマの訪問や住着きの痕跡が確認されている。被害として、仏像への引っ搔き傷や天井裏での糞尿によるシミや汚染などが報告された。現在、寺社の管理者では捕獲を目的としたアライグマ対策を行っているが、常に後手々々状態である。管理者によるアライグマの痕跡判断、侵入に対する防御可能な建造物への取り組みも必要である。

立命館大学歴史都市防災研究所副所長・谷口 仁士氏

全国の刑法犯罪件数は減少傾向を示しているが、社寺仏閣への侵入窃盗件数は平成16年から急増している。全国の寺社への盗難などの人為被害の調査結果や今後の立命館大学歴史都市防災研究所の取り組みが紹介された。その中で、最近の盗難被害や火災被害に遭遇した文化財所有者へのヒヤリング結果、最新の自動防犯システムの実証実験結果などについての報告もあった。

【第2回公開セミナー「進化する犯罪と防御システムの最前線」】

開催日：2013年11月29日(金) 15:30～17:40

開催場所：京都市大学のまち交流センター キャンパスプラザ京都4階 第2講義室

参加者：60名

講演者：大野 宏(株式会社セキュリティ工学研究所)、舟橋 信(NPO デジタル・フォレンジック)

概要：

「現在、犯罪件数は減少傾向を示しているが、その手口は多様化とともに進化している。このような状況に対応すべく防御システムも日々高度化され続けている。この最前線について！」を趣旨とし、2名の専門家から下記のとおり報告頂いた。

株式会社セキュリティ工学研究所 代表取締役・大野 宏氏

近年の犯罪傾向から最新の防犯カメラの動向に関する報告があった。侵入強盗犯の検挙率は70%であるが、侵入窃盗犯の検挙率は50%と低い。その他、組織犯罪・外国人犯罪が増加している。このような犯罪から守るため、人間の“目や耳”となるセンサーの説明がされ、現在開発中である「個人認証技術」「動き検知技術」などから自動不審行動検知技術の最前線についての説明があった。このような技術は、社寺仏閣の窃盗犯防御に活用できると確信した。

社団法人日本画像認識協会理事・舟橋 信氏

情報セキュリティの現状と対策についての報告であった。特に、最近話題になっているサイバー犯罪についてインターネットの普及とともに複雑化して行く状況やサイバー犯罪による不正な情報流出の事例が紹介された。流出した情報は自治体からの「住民基本台帳データ(金銭目的)」、企業の顧客情報、特許情報の漏洩など、身近な情報から最新技術の情報まで頻発しているとのことであった。現在、文化財のデータベース化が取り沙汰されているが、歴史的・文化的にも価値が高い文化財情報(個人情報に匹敵する)が知らない間に漏洩し、窃盗犯の手に渡る可能性もあり、文化財を窃盗などから守る必要性と難しさを痛感した。



講演の様子



質疑応答の様子

【第3回公開セミナー「京都歴史災害研究会」】

開催日: 2013年12月7日(土) 13:00~17:00

開催場所: 立命館大学 衣笠キャンパス 歴史都市防災研究所 地階 カンファレンスホール

参加者: 30名

講演者: 片平 博文(立命館大学文学部 教授)、股座 真実子(立命館大学文学研究科 博士課程後期課程)、川崎 一朗(京都大学 名誉教授)、谷口 仁士(立命館大学歴史都市防災研究所 副所長)、北原 糸子(国立歴史民俗博物館 客員教授)

概要:

京都歴史災害研究会の一環として、歴史災害にかかる5件(片平氏からは「大火の復原と検証」、股座氏からは「歴史災害研究における史料活用の方法」、川崎氏からは「1000年の時間スケールの災害リスクと歴史都市防災の意義」、谷口氏からは「地震リスクの定量化評価に伴う歴史災害記録の重要性と問題点」、北原氏からは「明治三陸津波の被害調査」)の発表があった。発表終了後、吉越氏(文学部教授)を座長として、工学系から歴史災害研究に望む課題などに関する総合討論が行われ、活発な議論が展開された。

【歴史都市防災研究所定例研究会】

歴史都市防災研究所では、研究メンバーがそれぞれの研究成果について報告をする場として、研究会を定例開催している。発表者および参加者は、当研究所所属の教員、専門研究員等の若手研究者、学生、および客員研究員として当研究所の活動に参画いただいている学外の関係者である。各研究部会・プログラムで進めている研究プロジェクトについて、多岐にわたる専門分野の研究者が活発に意見交換を行う機会として、来年度以降も継続予定である。

今年度開催した各回の内容については、以下のとおりである。

【第1回定例研究会】

開催日: 2013年6月1日(土) 10:30~12:30

開催場所: 立命館大学 BKC キャンパス 防災システムリサーチセンター

概要:

研究所に発展改組し第1回目の定例研究会の開催となり、「歴史都市防災研究所の活動計画概要」として所長より研究所の運営体制及び研究活動の指針が示された。その後、6つの研究部会・プログラムの代表者より、それぞれの研究課題および活動計画についての紹介がされた。

【第2回定例研究会】 第7回歴史都市防災シンポジウムとして7月13日(土)に開催した。

【第3回定例研究会】

開催日: 2013年9月25日(水) 10:30~12:30

開催場所: 立命館大学 BKC キャンパス 防災システムリサーチセンター

発表者および報告内容:

向坊 恭介 (理工学部 助教)	「飛騨高山伝統的建築物の改修マニュアルの構築」
吉越 昭久 (文学部 教授)	「歴史災害の研究会開催についての概要」
Shakya Lata (衣笠総合研究機構 専門研究員)	「ネパールの歴史都市における中庭型集住体の特性 とそこでのコミュニティ防災の可能性 —バタン旧市街地を対象として—」

【第4回定例研究会】

開催日: 2013年10月12日(土) 10:30~12:30

開催場所: 立命館大学 BKC キャンパス 防災システムリサーチセンター

発表者および報告内容:

谷口 仁士 (立命館グローバル・イノベーション 研究機構 教授)	「文化遺産における人災・獣害研究部会経過報告」
豊田 祐輔 (政策科学部 准教授)	「歴史都市・文化遺産の継承と保全のための 政策研究部会からの報告」
板谷 直子 (衣笠総合研究機構 准教授) ／矢野 桂司 (文学部 教授)	「国際展開・社会連携研究支援プログラム 研究計画発表」

【第 5 回定例研究会】

開 催 日: 2013 年 11 月 9 日(土) 10:30~12:30

開催場所: 立命館大学 BKC キャンパス 防災システムリサーチセンター

発表者および報告内容:

古川 真史
(理工学研究科
博士課程前期課程 1 回生)

「火災発生情報を共有できる
地域防災情報システムの開発
～開発経緯と今後の運用に関して～」

吉田 武弘
(日本学術振興会特別研究員)

「京都日出新聞に見る近代京都の歴史災害
～京都歴史災害史料研究会の 10 年」

鈴木 祥之
(衣笠総合研究機構 教授)

「与謝野町加悦重要伝統的建造物群保存地区防災
計画」

【第 6 回定例研究会】

開 催 日: 2013 年 12 月 14 日(土) 15:00~17:00

開催場所: 長江家住宅・袋屋

発表者および報告内容

金 玫淑
(衣笠総合研究機構 専門研究員)

「文化財の被害のヒアリング及び実地調査報告
～盜難文化財を主として～」

崔 明姫
(衣笠総合研究機構 専門研究員)

「自然災害による歴史観光都市の経済的影響の
定量評価」

矢野 桂司 (文学部 教授)

「京町家のデジタル・アーカイブ」

当団は、矢野教授が研究調査対象としている、長江家住宅にて開催された。実際に日々調査にあたっている客員研究員や学生によって、長江家の歴史や建造物の特徴、調度品について説明がされた。



学生による長江家住宅の説明



中庭の様子